



KAKEHASHI Project 招へいプログラム 一般交流（大学生）の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、米国より大学生ら計 100 名が来日し、日本の政治、社会、歴史、文化および外交政策に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、平成 27 年 11 月 25 日から 12 月 2 日までの 7 泊 8 日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加国・人数

米国（100 名）

3. 訪問地

東京都、長野県、石川県、愛知県

4. 日程

11 月 24 日（火）米国発

11 月 25 日（水）成田国際空港より入国

11 月 26 日（木）来日オリエンテーション

【日本の外交政策に関する講義】外務省北米局

【日本理解講義】日本理解促進（政治・経済）明治大学

【サブカルチャー】秋葉原（長野グループ）

石川、愛知グループは各県へ移動（新幹線）

11 月 27 日（金）～11 月 30 日（月） 地方プログラム

* 長野県

【学校交流】上智大学（東京）

【地方自治体表敬】長野県庁

【環境】白馬ジャンプ競技場

【地場産業】大王わさび農場

【歴史・伝統文化】松本城、善光寺

【ホームステイ】ホストファミリー対面式、歓送会

【ワークショップ】

* 石川県

【地方自治体表敬】加賀市役所

【学校交流】金沢大学

【地場産業】九谷焼美術館

【歴史・伝統文化】片山津温泉・晶子染体験、大聖寺実業高校生との俳句交流

【ホームステイ】ホストファミリー対面式、歓送会

【ワークショップ】

* 愛知県

【地方自治体表敬】愛知県庁

【学校交流】中部大学

【歴史・伝統文化】名古屋城、大須観音

【ホームステイ】ホストファミリー対面式、歓送会

【ワークショップ】

12月1日（火）東京へ移動

【歴史・伝統文化】浅草（石川・愛知グループ）

【成果報告会】訪日成果・帰国後活動計画発表

12月2日（水）

【歴史・伝統文化】明治神宮・原宿

成田国際空港より出国

5. プログラム記録写真



11月26日【日本の外交政策ブリーフ】（東京都）



11月27日【学校交流】中部大学（愛知）



11/27【文化体験】片山津温泉足湯（石川県）



11/27【文化体験】晶子染（石川県）



11月30日【学校交流】金沢大学（石川県）



11月29日【歴史的建造物】松本城（長野県）

6. 参加者の感想

◆ 米国 大学生

日本について最も印象に残ったのは、訪問した各地域における地域社会への高い所属意識です。人々は互いに敬意をもって接しており、道路等の環境は手入れが行き届き、道にゴミはほとんどなく、強盗などの犯罪に対する不安もほとんどありません。道を歩いていると、初対面にも関わらず、人々は挨拶をしあっており、地域社会への高い所属意識を感じました。アメリカ人の他者との付き合い方とは全く異なり、日本人の対応は外から来た人を歓迎する気持ちであふれており、大変素晴らしい滞在となりました。

◆ 米国 大学生

日本について最も印象深く感じたのは、安全だということです。夜でも心配なく道を歩けます。日本人と一緒に過ごし、日本の歴史に関する講義を受けたあとは、犯罪や暴力が少なく、道にゴミが落ちていないというのは、日本社会の基本的価値観からくるものだとはっきりとわかりました。これらの価値観の中には、相手を尊重すること、尊敬の念をもつこと、礼儀正しいこと、勤勉さがあります。日本人の高い道徳観念はすばらしく、こういった価値観を見習おうと思います。お互いの文化を理解し、良さがわかれば、世界中の国々がぎざな意思疎通を深め、共通の目標に向かっていけるのではないかと思います。

◆ 米国 大学生

本プログラムで最も印象に残り、帰国して伝えたいことは日本の伝統文化です。学校交流での大学生やホストファミリーとの交流から学びました。もちろんソーシャルメディアや他の媒体で日本について得られる知識もありますが、自分の目で見て、体験することは全く違います。どれほど米国と日本の文化が異なるのかということを実際に感じるすることができます。伝統文化だけではありません。日本はポップカルチャーもあふれており、今回の滞在を通して、伝統と最先端、両方の日本文化を体験することができ、本当に素晴らしいプログラムでした。このプログラムを通して自分達が日米の社会の架け橋になっていることを実感しました。

◆ 米国 大学生

景色、交通など印象に残ったことはたくさんありますが、特に日本の人々が印象に残っています。信じられないくらい親切で、他人を理解しようとし、知識も豊富でした。今まで出会ったどの人よりも献身的で親しみのある人たちでした。ホストファミリーとはたった 2 日しか一緒にいられませんでした。その短い間でも十分に日本人の特徴を理解し、それが日本文化の一番素晴らしい部分だと感じることができました。最先端の技術に驚きましたが、それと同様に日本の家族の在り方にも驚きを隠せませんでした。滞在中は日本の家族の一員になったような気がしました。すぐに日本に帰ってくるつもりです。家族という雰囲気を味わいたいのであれば、日本の家庭に滞在することを他の人にも強く勧めます。

7. 参加者の帰国後の発信内容

<p><i>INFRASTRUCTURE</i></p> <ul style="list-style-type: none"> • Roads • Yellow Guidance Lines on sidewalks for the blind • Translated signs • Convenient recycling bins • Vending machines 	<p><i>FUTURE PLANS</i></p> <ul style="list-style-type: none"> • Return to Japan • Share experience with friends and family "Facebook" • Connect with host families • Work and study abroad in Japan 
<p>日本での気づき</p>	<p>アクションプラン</p>
<p>Section 2 – Social Interactions</p> <ul style="list-style-type: none"> • Security <ul style="list-style-type: none"> – Trust in the Community – Respect for One Another • Social Unit <ul style="list-style-type: none"> – Close-Knit Families – Polarity in Family Structures (City vs Rural) • Tolerance & Cooperation <ul style="list-style-type: none"> – Patience – Community/Family First Mentality  	<p>Concluding Remarks</p> <ul style="list-style-type: none"> • Understanding Leads to Friendship • Fosters a Deeper Appreciation and Compassion for Each Other • Developing Relationships 
<p>日本での気づき</p>	<p>アクションプラン</p>

NATURE

- Onsen
- Harmony with Nature/ Modern vs. Traditional

III. Our Action Plan (Actions to be taken) アクションプラン

◎ Project Title プロジェクトタイトル The Japanese Conscience in America

WHY: (Reasons to do it) 考えの理由
It will promote the Japanese culture, as well as bring the moral fiber of their people to our own country.
By Facebook, Media Outlets, School Presentation

WHEN: (When will it be done?) いつやるか
As soon as possible, in early moment of everyday. (All of our actions will hold this plan if done correctly)

WHO: (Who will do it?) 誰がやるか
All of us who were on this trip this week, and all who take up our mantle (Some of us will be leaders here)

WHO: (To whom?) 誰に対してやるか
All people who will listen to us and be receptive to our message (we have to be vigilant here)

WHAT: (Details of the action) 何をやるか
HOW: (How to do) どうやってやるのか
On the 3rd December, we will be back in America. We will reach out to local media outlets, as well as create social networking sites that engender communication and understanding among past, present and future Kakehashi participants. Also, there will be presentations at our university on our experiences that convince more people to take interest in Japan. (This plan is very subtle, but very human, and will be gradual in its effectiveness.)

日本での気づき

アクションプラン

Homestay Experience & Family

What We've Learned:

- Education is serious
- Time for family no matter how much work
- Family assists mother with housework
- Ancestral history is important, but not the most important

Modern Japan

Application

- Sharing experience through social media such as Twitter, Facebook, and Instagram, as well as via personal relationships
- Educating others with presentations, radio shows, and videos

日本での気づき

アクションプラン

Facebook 発信